

2019年度卒業式校長式辞（2020. 3. 18）

厳しい状況での卒業式となりました。新型コロナウイルスの拡大は、前代未聞の全国一斉休校要請を導き、ここ武蔵も期末試験を実施することなく休校に入りました。武蔵大学の卒業式は中止。武蔵中学校の卒業式も残念ながら中止という状況の中にあって、感染リスクを最小に抑えつつも、高三組主任団を中心とする教職員の並々ならぬ尽力のもと、本日ここに武蔵高校の卒業式を迎えられたことを、率直に喜びたいと思います。

94期生の皆さん。卒業おめでとう。今日の門出を心からお祝い申し上げます。そして、本日ご参列がかなわなかったことは誠に申し訳なく存じますが、ライブ中継をご覧になっている保護者の皆様にも、ご子息のご卒業、誠におめでとうございます。

さて、この状況下における卒業式に際し、私は校長として皆さんに何を伝えようか考えました。私が皆さんとともに学んだのは1年間だけで、実は本日、縁の下の力持ちとして、BGMの選曲や放送室での操作をしていただいている梶取前校長先生のもとで、皆さんは武蔵の大方の時代を過ごしてきました。それでも4月の記念祭での頑張り、5月から始めた校長面談など、皆さんとは色々な思い出があり、94期生が旅立っていくことに一抹の寂しさを禁じ得ません。

そこで、皆さんへの餞の言葉として、「武蔵で培った「自調自考の精神」を「本物の自調自考」となるようにしっかりと磨け」というお話をしたいと思います。

武蔵は三理想、とりわけ「自ら調べ自ら考える」という「自調自考の精神」を大事にしています。自由でのびのびとした環境の中で、皆さんは自らの好奇心や向上心を磨き、成長してきたことと思います。ある者は、その環境を十分に生かし、自分の好きなものを見つけ、とことんその能力を磨いていったことでしょう。一方で、自由な環境をもてあまし、だらだらと過ごしてしまったと後悔している者もいるかもしれません。しかし、私はどんな風に過ごしたとしてもすべてまるごとOKだと思います。

大切なことは、今日、武蔵を卒業した時点において、ここにいる皆さんが「武蔵での自調自考」のあり方を振り返ったうえで、これから始まる長い人生に向けて、「本物の自調自考」を作ろうとすることだと思います。

今、世界は混沌としています。新型コロナウイルスによるパンデミックなど、先行き不透明な課題が次々に発生していきます。そうした時代だからこそ、地球規模で広がる難解な課題を解決し世界の平和と繁栄に貢献するためには、自ら調べ自ら考える続ける力が本当に

求められています。武蔵では、人の考えを鵜呑みにするのではなく、あるいは思考停止をして他者に全面的に依存するのでもなく、自分の頭で考えることを大切にする空気があったと思います。この武蔵で培ってきた「自調自考の芽」を「本物の自調自考」にしていかなければなりません。

それでは、どうしたらよいのか。

私のアドバイスはただ一つ。「これまで育ってきたこの武蔵は狭い世界であることを認識し、頭と心がやわらかな若い時期に、未知なる外の世界へどんどん飛び出せ」ということです。そしてその中で「それぞれの「自調自考」を「本物の自調自考」となるよう磨いていけ」ということです。

世界は実に多様で異質な他者や文化に溢れています。だから合意形成は大変です。この武蔵の中だけでも、皆さんが「自調自考の精神」に基づいて、自分の考えを主張しようとしたときに、色々と苦勞したりぶつかったりしたこともあるでしょう。

ただし、武蔵はそれでも同質性の高い、極めて狭い世界です。自分とは異なる存在、つまり生まれた場所も育った環境も違う、そして考え方や価値観の違う他者に、自分の考えを理解してもらえるように伝え、協働し、喜びを分かち合っていくことは難しいことです。皆さんの「自調自考の精神」をさらに本物にしていくためには、自らを未知なる環境に置いて、その中で自分の意見を発信し対話を重ねていく。そのことにより、自分の見方考え方を磨きつつ、より普遍的な価値を見出し、様々な他者と協働していく。そういう作業が極めて重要だと私は思います。それではみなさんが飛び出す未知なる世界とはどこか。それはグローバル化の流れを踏まえ、世界中の様々な国や地域でもよいと思います。あるいは今日本は格差の拡大が言われていますが、国内でも、皆さんが知らない地域や世界はたくさんあります。日本の足元を固めるということでもよいと思います。

特に私の卒業した時代とは違って、今は海外へ飛び出せる環境が整っています。アジア、アメリカ、アフリカ、ヨーロッパ、オセアニア。どんどん世界に飛び出し、深いところで多くの人に出会ってほしいと思います。新型コロナウイルスへの対応一つとっても、国や文化によって考え方は異なります。さらに特定国家からの流入を禁じるなど、自国中心の防衛策も出てこざるをえません。でも世界は一つ。多様で異質な文化の中で、いかに普遍的な価値を築くかが、今問われています。武蔵生には、世界につながるだけでなく、世界をつなぐ人であってほしいと願っています。

先ほどお話ししたように、先行き不透明な時代を生きていくには、そして難解な課題を解

決していくには、自分の頭で考え続けることが本当に大事です。自分で考えようとする、
「世間が」とか、「社会が」とか、あるいは「前例が」という同調圧力は常に出てきます。
その同調圧力を単に否定するのではなく、そうしたものも巻き込みながら巻き返すくらい
の力が必要だと私は思います。

今日は卒業式に際し、皆さんへの饒の言葉として、「自調自考の精神」を「本物の自調自
考」となるように磨け」「そのためにも、頭と心がやわらかな若い時期に、国内外を問わず、
未知なる外の世界へ飛び出せ」という話をしました。ぜひそうした経験を通して、皆さんに
は様々な分野で真に信頼され尊敬される人に、そして真に信頼され尊敬されるリーダーに
なってほしいと願っています。

でも人生はうまくいかないこと、逆境があります。ひょっとすると、今自分は逆境にある
と思っている人もいるかもしれません。最後に、そんな逆境のときにそれを乗り越えるため
の魔法の言葉を、皆さんの卒業アルバムにしたためましたので、紹介をします。

それは「おいあくま」です。おこるな、いばるな、あせるな、くさるな、負けるな。この、
怒るな、威張るな、焦るな、腐るな、負けるなの頭文字をとって「おいあくま」です。特に
「怒るな」「威張るな」の言葉を忘れずにいてください。それは、これからの多様で異質な
文化が共生するグローバル社会においては、弱い人たちの立場に共感できる「人としての優
しさ」や「寛容」がますます大切になってくると思うからです。

いよいよ別れのときです。今日は残念ながら来賓の皆様や、保護者の皆様の臨席はいた
だけませんでした。教職員は高3組主任をはじめ、多くの先生方が君たちの旅立ちを見守っ
ています。武蔵の良さはおそらく数十年後にひしひしと感ずることと思います。ぜひ、一度
しかない皆さんの人生を価値あるものに創り上げていってください。

結びに、94期武蔵生の前途洋々たる未来を期待し、私の式辞といたします。

2020年3月18日

武蔵高等学校長 杉山 剛士